

施策評価シート

評価実施年度：平成29年度

事務事業所管部局長 (幹事部局)	地域振興部長 穂葉 寛佳	電話番号 0852-22-5080
---------------------	--------------	-------------------

①施策の目的等

施策の名称	施策 I-6-2 航空路線の維持・充実
目的	航空路線の維持・充実により、県内3空港の利便性の向上を目指します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
出雲縁結び空港の年間乗降客数	目標値	80.0	82.5	85.0	87.5	90.0	万人	秋・石見空港の年間乗降客数	目標値	13.0	13.5	13.8	14.1	14.5	万人	
	取組目標値									取組目標値			14.4	14.9		14.9
	実績値	82.9	89.2							実績値	12.6	12.2				
	達成率	103.7	108.2	-	-				%	達成率	97.0	90.4				
隠岐世界ジオパーク空港の年間乗降客数	目標値	5.1	5.3	5.3	5.4	5.4	万人		目標値							
	取組目標値									取組目標値						
	実績値	5.3	5.3							実績値						
	達成率	104.0	100.0	-	-				%	達成率	-	-	-	-		
定性目標	平成28年度～平成31年度															
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）	年間乗降客数は、季節運航も含めた定期路線の数値で、チャーター便の乗降客数は含まれていない。 秋・石見空港の取組目標値は、秋・石見空港利用拡大促進協議会が設定している東京線2便化継続のための目標値に大阪線の目標値2千人を足した数値。															

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<ul style="list-style-type: none"> 県内航空路線を維持、拡充させるため、各空港の利用促進協議会の旅行商品造成や利用情報発信などの活動経費に対し助成を行い、地元自治体とも連携し、アウト・イン双方の利用促進対策に取り組んでいる。 第1四半期(4月～6月)の各空港の乗降客数の状況(対前年度比)は、 <ul style="list-style-type: none"> 【出雲縁結び空港】 111.6% 【参考】平成28年度実績：89.2万人 平成29年度数値目標：85.0万人 【秋・石見空港】 113.6% // : 12.2万人 // : 14.4万人 【隠岐世界ジオパーク空港】 109.7% // : 5.3万人 // : 5.3万人 <p>となっており、3空港とも増加傾向にある。</p>
---	--

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価	判断	その理由
A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいる(見直す点がある) C:あまり順調に進んでいない	B	<ul style="list-style-type: none"> 出雲東京線の機材大型化、出雲名古屋線の2便化(いずれも平成28年7月から)などにより、出雲空港の乗降客数は増加傾向にあるが、平成29年は機材が大型化される期間が短縮されるため、今後の乗降客数の伸びは鈍化する可能性がある。 石見空港については、平成28年度は目標値に達しなかった。平成29年度第1四半期は前年度同期を上回ったものの、利用拡大促進協議会として設定している目標には届かなかったため、7月より緊急対策を実施している。 隠岐空港については、平成28年度の利用は順調であった。平成29年度は特定有人国境離島地域交付金が新たに措置され、隠岐～出雲路線の運賃(住民利用)が引き下げられた結果、利用が増加している。 各利用促進協議会では、乗降客数の一層の増加を図るため、閑散期となる冬季に対策事業を実施している。

⑤課題の認識

(1)平成31年度末の施策目的の達成状況(予測)	判断	その理由(④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載)
A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	B	
(2)施策の目的達成に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> 経済動向や人口減少等により、航空需要の顕著な拡大は望める状況にはなく、国内地方航空路線を取り巻く運航環境は、引き続き厳しいものがある。こうした状況の中、県内航空路線の維持・拡充のためには、観光客のさらなる集客や企業の誘致などによる交流人口の拡大に繋がるよう、利用しやすいダイヤへの改善や旅客需要に見合った機材の運用など利便性の向上が重要である。 また、新幹線と競合する山陽地域の各空港に比べ、県内空港は割引運賃に差があるため、航空運賃の低廉化を求める声もある。

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各空港の利用促進協議会、地元自治体や観光担当部局と連携して、乗降客数の増加に向け、引き続き、首都圏、関西などの大都市圏からの観光客の集客をはじめ、地元からの利用拡大などに取り組み、各路線の維持・充実に繋げていく。 秋・石見空港の緊急対策などについては、関係する庁内各部局と連携し、関係者が一体となって利用促進に取り組み、東京線の2便運航継続を目指す。 航空会社に対しては、航空運賃の低廉化、旅客需要に応じた機材の運用、利用しやすいダイヤへの改善などを粘り強く要望していく。 国に対しては、羽田空港発着枠の地方航空路線への優先配分や、地方の航空路線維持・拡充に向けた取組みへの支援制度の創設などを要望していく。
---------------------	---

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	施策 I - 6 - 2 航空路線の維持・充実			
-------	-------------------------	--	--	--

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	出雲空港路線の維持・充実事業	出雲空港の大都市圏でのPR、利用促進キャンペーン等の利用促進事業を実施し、利用者を増やすことにより、路線の維持充実に繋げ、利便性を向上させる。	13,000	11,500	交通対策課
2	萩・石見空港路線の維持・充実事業	利用促進事業の実施により、増便やダイヤ改善等の利便性の向上に取り組み、高速交通ネットワークが未整備である石見地域において、大都市圏と直結した高速交通手段である航空路線の維持・充実を図る。	99,283	180,225	交通対策課
3	隠岐空港路線の維持・充実事業	運賃助成や旅行商品の低廉化等により、利便性を向上させ隠岐空港路線の維持・充実を図る。	23,859	48,103	交通対策課
4	国際チャーター便誘致事業	国際チャーター便等の運航に対して支援し、交流人口を増やすことにより定期便の開設を目指す。定期便の開設は、アジアを中心とした近隣諸国への渡航を容易にし、県民の利便性は向上する。	1,656	4,000	交通対策課
5	出雲空港周辺対策事業	出雲空港の管理運営や県民の利便性向上のためのダイヤ変更等に対する理解と協力を得ることにより、運航の安全性、定期性の向上を図り、利用者の利便性を高める。	13,456	22,096	交通対策課
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					